

発行日 令和8年3月30日

発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用  
二次元コード

「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

**基 本** まもる・よせつけない・つかまえる 3つの基本対策を総合的に！  
**食べさせない** クマの食べ物は排除し、しっかり保管、電気柵の設置準備をします  
**刈払いの実施を** 刈払いを実施するスケジュールの決定を、また倉庫等も点検を  
**電気柵点検** パワーユニットの点検と支柱等資材の準備を確実に  
**人身被害防止** 音を出して人間の存在を知らせましょう。万が一襲われそうになっ  
 た場合には、「首を守ってダンゴムシ」です。

## 1 基本

県では、令和8年に入り、2月、3月と人身被害が発生しており、4月以降、出没が増える傾向にあるため、引き続きクマの出没に注意する必要があるため、クマによる被害の未然防止を図るため、3月24日県内全域に「ツキノワグマの出没に関する注意報」を発表しました。

これからの時期は、クマが冬眠から目覚め、人里へ出没する可能性が高くなりますので、県民の皆様には、引き続き、クマを人里へ寄せ付けない対策を実施していただくとともに、出没情報なども確認しながら遭遇のリスクを避け、万が一遭遇した場合にはむやみに近寄らず、安全を最優先に行動いただくようお願いします。

ツキノワグマは常にエサを求めて活動しています。そのため、エサが確保できない、または、人間社会の近くで生活したほうが、高カロリーのエサが確保しやすいと判断した場合には、私たちの生活や農業生産の現場に出没することも考えられます。

野生獣による農作物被害対策の基本は、「個体群管理＝つかまえる」「侵入防止対策＝まもる」「生息環境管理＝よせつけない」の3つの基本的対策を、地域やほ場で総合的に継続実施することです。

捕獲・駆除だけでは、次の個体（群）がやってきて、再び被害を発生させます。捕獲することは基本対策として重要ですが（特に加害獣）それだけでは被害を無くすことはできません。3つの基本対策を総合的に実施することが最も重要です。

## 2 食べさせない対策を！

- ・前年に収穫した農作物はもちろん、前年に収穫しなかった果実、廃棄する家畜の飼料（サイレージ）、生ゴミ（コンポスト等を含みます）、家庭菜園等、身のまわりの思わぬものがツキノワグマを引き寄せるエサとなります。それらは、屋外に放置しないようにします。
- ・ツキノワグマを引き寄せないよう、コメや生ごみ（コンポストを含む）などは、小規模であれば密閉する等「匂いを出さない」対策を行いつつ、小屋や倉庫等の戸締りと施錠を確実に実施するなど「侵入されない対策」を実行します。
- ・農作物は植えると同時に、食べさせない対策を実施する必要があるため、当初から電気柵設置の準備を行います。
- ・畜舎は、家畜の（配合）飼料はそのままツキノワグマのエサになってしまうため、畜舎周りへの電気柵設置を検討します。舗装されている場合は、電気を通しづらく電気柵の効果が低下することから、舗装部外側への設置を検討します。

### 3 刈払いの実施と環境点検を！

- ・ほ場や集落、河川付近の茂みや耕作放棄地は、ツキノワグマをはじめとした野生獣の格好の潜み場、休憩場となります。
- ・「草を刈る」ことは、見通しを良くすることになり、ツキノワグマの姿を見せると同時に、休憩場所を無くすこととなります。
- ・また、草刈りは最大の防御策である「電気柵」の効果をおよぼすことにもつながり、効果的な対策です。
- ・今後の刈払いの実施場所や日程、実施者について、集落等において検討し決定しておきます。
- ・車庫や倉庫、物置、廃屋などは、人身被害防止に留意しながら点検し、住処や冬眠場所になっていないか、いなかったかを確認します。

### 4 効果的な電気柵運用のための計画を

電気柵は、ツキノワグマ等野生動物に、痛みを与えて防御できる唯一の方策です。

被害を受ける直前の設置や、被害を受けてからの設置では、十分な効果が期待できません。

このため、作物の播種・定植後、速やかに電気柵が設置できるよう、予め計画を立てておきます。

資材の準備のほか、ほ場に、電気柵の設置と点検のためのスペースを確保します。

また、既存のパワーユニット(電牧機)やバッテリーも点検し、正常に稼働するかを確認します。パワーユニットは、デジタルポルトメータを用いて直接電圧を測定し(パワーユニットのプラスに電圧計のプラスを、アース側にマイナスを接続することで測定できます)通常電圧で作動しているかを確認します(写真1)。

その他、ワイヤーや支柱は十分な数量があるのか、また、ワイヤーを正しい高さでピンと張るため、角や両端には、ある程度太い支柱が用意されているか、ピンと張るための小道具(=簡易緊張具)は用意されているか、を確認する等、しっかりと準備をします。

### 5 人身被害防止

クマの出没情報は常に確認しつつ、出没の可能性がある場合には、複数人で行動します。鈴やホイッスル等音の鳴るグッズを用いるほか、人間の声などで、クマに対して人間の存在をアピールします。撃退スプレーを携帯できる場合には、事前にロックを外す練習もしておきます。顔面や頭部の損傷程度を軽減させるためにもヘルメットの着用は有効です。

また、至近距離でクマと突発的に遭遇し、攻撃を受けそうになった場合は、首の後ろで両手を組んで、うつ伏せになったり体を丸めたりして顔を伏せる防御姿勢をとり、首から上の大ケガを防ぎます。

### 6 おわりに

ツキノワグマを含め野生獣の対策としては、3つの基本対策を同時に実施する総合対策の実行が重要



写真1 パワーユニットの点検(この事例では、無負荷で電圧は8.4KVであり、正常と判断した)



写真2 ピンと張られたポリワイヤーによる電気柵

です。また、ツキノワグマを対象とする場合の防御策としては「電気柵」しかないことから、電気柵の適正な運用を検討してください。

なお、設置済み電気柵の点検や、今後に向け、集落単位やほ場における電気柵の設置を計画している場合等、各農業改良普及センターでは支援を行っていますので、適宜ご相談ください。

## 山火事警戒宣言発令中！ [ 2月27日 ~ 5月31日 ]

山火事の多くが、ちょっとした火の取扱いの不注意から発生しています。

県民の皆様におかれましては、山火事の危険性を十分認識していただき、特に、強風時や乾燥時には火入れや野焼きなどの火の使用は絶対行わない、タバコの投げ捨ては絶対行わないなど、恐ろしい山火事の防止に御協力をお願いします。

次号は4月17日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。